

## 原油指標、値動きズレ鮮明

原油価格の欧米二大指標の間で値動きのズレが鮮明になっている。4月にマイナス価格をつけたニューヨーク先物は米国内での過剰在庫への懸念から安値が際立つ。一方、北海ブレントは産油国の協調減産の再開を受け、比較的高値を保つ。一時1ドルに近づいた価格差は再び拡大。新型コロナウイルスの影響で需要が落ち込む中、減産や在庫水準を巡って地域間の需給変動が大きくなっている。米国の指標となるニューヨーク市場のWTI（ウェスト・テキサス・インターミディエート）先物は現在、1ドル26¢前後。欧州の指標、北海ブ

### WTI、際立つ安値 ■ 北海ブレント高く

レントは30ドル近辺を動き、価格差は4ドル程度と

### 減産・在庫巡り地域差



「欧州高・米国安」が3月中旬の2倍超の水準だ。4月には9ドル以上開きも目立った。コロナ禍が深刻化する1月以前は5〜6ドルで安定しており、最近になって価格差がめまぐるしく変化してきている。「欧州高・米国安」が進んだのは、5月に再開した産油国の協調減産の効果が大きい。石油輸出の大越龍文氏。

一方、新型コロナウイルス感染の中心地となった米国は大規模な移動制限で需要が急減した。減産の数値目標も追わない。貯蔵能力不足への警戒が強まったWTIは4月後半以降半以降が加速し、20日には史上初のマイナス価格を記録した。その後は各州の外出制限解除で需要がやや持ち直しているものの、依然高い在庫水準が上値を抑える。

逆に欧州では3月、OPECプラスの減産協議の決裂で価格競争が激化してブレントが急落。WTIとの価格差は1ドル台に縮んだ。サウジアラビアの安値攻勢を受け、アジアの指標、中東産ドラバ、イ原油も大きく値下がりした。5月以降もサウジアジアでのシェア維持を進めており、ドバイ原油はブレントより2ドルほど安くなっている。

WTIとブレントの値動きの違いは、決済の仕組みが異なる点も影響している。WTIは現物の取引が主で、原油先物のETF（上場投資信託）などが相次いで6月物の持ち高を減らした。米特有の事情に価格が振り回されやすくなっている。流動性も低下すれば国際指標としての存在感にかかわる。（小野寛伸）



# ウメモト インフラオメーション



2020年 5月 14日 担当者：水谷

## 米原油在庫 16週ぶり減

### 減産と経済再開で 価格も回復傾向

【ニューヨーク13日路透電】米エネルギー情報局（EIA）が13日発表した8日時点の原油在庫（戦略備蓄除く）は16週間ぶりに減少した。主要産油国の協調減産に続き、米経済の一部再開でガソリン需要が戻ってきたためだ。供給過剰への懸念がいくぶん和らぎ、

価格も回復傾向にある。13日のニューヨーク市場の原油先物期近物は1バレル25.29ドルで取引を終えた。8日時点の原油在庫は先週より74万バレル少ない5億3147万バレルだった。減少幅は小幅だが、4月に毎週1000万バレル前後で増えていた状況からは一変した。

米経済が一部で再開し車の利用が増えている。ガソリン価格は4月下旬に1バレル1.7ドル台後半にまで下がったが、5月11日には1.85ドルと小幅に上昇した。EIAが集計する全米のガソリン在庫も4月下旬から減り始めた。ドライブインズを控え需要が高まれば、原

料である原油の在庫も減る可能性が高い。新型コロナウイルスの世界的なまん延に伴う経済活動の停止などで、4月は原油の需給バランスが一気に崩れた。20日には原油貯蔵先が枯渇する

の見方から投資家が原油先物を投げ売りした。ニューヨークのWTI（ウエスト・テキサス・インターミディエート）期近物は一時マイナス40ドル台を付けるなど混乱が広がった。

石油輸出国機構（OPEC）やロシアなど主要産油国は5月1日から協調減産に踏み切った。供給削減の効果もあり、原油市場は落ち着きを取り戻しつつある。13日は1

バレル25.29ドルと前日より小幅に下落したが、原油先物が暴落する前の水準を回復している。

仮にマイナス価格が再発した際に混乱を抑えようとする動きもある。米商品先物取引委員会（CFTC）は13日、「原油

先物価格がマイナスになった際に備えるべきだ」との忠告を取引所などに送った。極端な値動きや流動性の枯渇は投資家に巨額の損失をもたらすリスクがあるためだ。実際の経済活動にも悪影響が広がりにかからない。

引用記事

日本経済新聞

燃料油脂新聞

化学工業日報



## アルコール「IPA」、アジアで急騰 欧米で消毒需要

新型コロナ 環境エネ・素材

2020/5/14 11:30 | 1159文字 [有料会員限定]

保存 共有 印刷 翻訳 投稿 ツイート その他

電子部品の洗浄やインキ向け溶剤などに使うアルコール「イソプロピルアルコール（IPA）」がアジアで値上がりしている。欧米では消毒用にも使われるため、新型コロナウイルスの感染拡大で需要が急増しているためだ。プラントの定期修理の時期に重なったこともあって需給が引き締まった。工業用途が底堅い国内では先行き供給不安の声も出始めた。

IPAは、塗料やインキの溶剤、洗浄剤といった工業用途のほか、消毒剤などに使う。皮膚への刺激が強いとされ、欧米では濃度を下げて保湿成分を混ぜた消毒剤もあるという。日本では手指に使う市販の消毒液には発酵エタノールが使われるが、少量のIPAを含む製品もある。

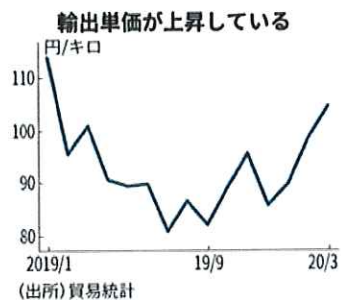
市場に動きが出始めたのは新型コロナウイルスの感染が欧米で広がった3月。東南アジアで「消毒剤をエタノールからIPAへ切り替える動きが出てきた」（商社）。アジアでのスポット価格は足元で1トン1500ドル前後と、この2～3カ月で2倍程度に上昇。欧州でもタンクローリー車による納入価格が3～4月にかけて2倍以上の同2500ドル前後となった。



④画像の拡大

IPAは欧米では消毒用にも使われる＝ロイター

IPAは世界の生産能力が年230万トン程度とされ、アジアが4割強を占める。欧州は2割弱しかなく、域内生産で不足する分を中国などアジア勢から調達する。東南アジアでは「複数のプラントで定期修理が重なり、需給の逼迫感が一気に強まった」（化学大手）。



④画像の拡大

日本では3社がIPAを生産する。生産能力は世界の1割にあたる年22万トン。2019年には9万トンを輸出と、半分が海外向けだ。各社とも内外の需要拡大をにらむ。3～4月に定期修理を終えたJXTGエネルギーは5月以降、徐々に稼働を上げてフル稼働に入る見通し。5～6月にはトクヤマが定期修理に入る予定だが、三井化学はフル稼働を続けている。

貿易統計から算出した3月の平均輸出単価は、前月比6%高の1キログラム104.4円。3カ月連続で上昇した。

アジアでは高純度のIPAが電子部品の洗浄向けに底堅い需要がある。日本国内でも「(巣ごもり消費の拡大で) 冷凍食品のパッケージ印刷向けの需要が増えている」（商社）。国内の主用途であるインキ・塗料関連の需要家の間では、調達に影響がでかねないとの声も出始めた。

海外のスポット価格の上昇は、国内の取引価格にも影響しそうだ。国内では四半期ごとの国産ナフサ価格を基準に交渉するのが一般的。1～3月の国産ナフサは1キロリットル4万4800円と、前四半期に比べ3500円上昇。これに伴い国内のIPAの取引価格も4月から小幅に上がったようだ。

国産ナフサは先行指標となるアジア市場のスポット価格が3月以降に急落、4～6月は3万円を下回るとの見通しもある。ただ7月以降にIPAを値下げすると、海外に比べ割安感が強まるため、国内価格の行方には不透明な要素も漂っている。

## 出光興産会長 来月に退任

### 亀岡副会長も

出光興産は14日、月岡隆会長（69）と亀岡剛副会長（63）が6月に退任すると発表した。両氏は特別顧問に退く。出光は昭和シェル石油と2019年4月に統合した。統合を主導してきた両氏が退任することで出光は新体制での改革を進める。6月25日の株主総会后

の取締役会で正式に決める。岡田智典副社長はシニアテクニカルアドバイザーに退く。

対等の精神に基づき、新会社の代表取締役には、出光出身の月岡会長と木藤俊一社長、旧昭和シェル出身の亀岡副会長と岡田副社長が就いていた。亀岡氏と岡田氏が退任し、出光側から2人の代表取締役を入れる。この結果すべての代表取締役役が出光出身者となる。



## 前田道路の社長に今泉氏 前田建設出身

2020/5/15付 | 519文字 [有料会員限定]

保存 共有 印刷 共有 ツイート Facebook その他

前田道路は14日、同社顧問の今泉保彦氏（62）が社長に就任する人事を発表した。今泉氏は親会社の前田建設工業出身で建築部門を長く担当した。今枝良三社長（65）は特別顧問に就任する。前田建設は敵対的TOB（株式公開買い付け）により、前田道路を3月に子会社化している。前田建設側が経営トップとなり、グループ経営を強化する狙いがありそうだ。

空席だった同社会長には同じく前田建設出身で、今泉氏と同じく5月に前田道路顧問になった福田幸二郎氏（70）が就任する。両者は6月25日の株主総会後に就任する。



画像の拡大

前田建設は1月、公共インフラの管理・運営を担うコンセッション事業の拡大を目指し、当時25%分の株式を保有していた前田道路に対して持ち株比率を51%に高めるTOBを実施した。

前田道路は手元資金を意図的に流出させる特別配当や、同業最大手NIPPOとの資本業務提携を目指すなど反発したが、前田建設が足元の株価に約50%のプレミアムを上乗せしたTOB価格を提示したこともあり、TOBは成立している。

**今泉 保彦氏**（いまいずみ・やすひこ）81年（昭56年）成蹊大法卒、前田建設工業入社。10年執行役員、17年取締役専務執行役員。20年5月前田道路顧問。秋田県出身。

## 臭気抑制した 天然ゴム開発

住友ゴム

住友ゴム工業は天然ゴムの臭いを大幅に抑制した「臭気低減天然ゴム」を開発した。天然ゴムに含まれるたんぱく質や脂質などの非ゴム成分を臭気発生原因として特定。原材料の加工工程に独自手法を取り入れること

で、これら成分の分解を抑制することに成功した。すでにタイヤの天然ゴム加工工場に導入しており、自動車タイヤ製品への適用を始めている。同社では、さらなる適用品の拡大を検討していく。

ゴムの木の樹液は臭いが強く、タイヤ製造プロセスでは硫黄化合物を混ぜることでさらに強い臭気が発生する。同社は天然ゴムの臭気低減に関する研究に2016年頃から着手。天然ゴムに含まれる酢酸やイソ吉草酸、アルデヒド、酪酸などを臭気発生原因として特定し、これら成分の分解抑制技術を確立した。同技術を用いることで、天然ゴム加工工場をはじめとして、タイヤ製造工場などでの臭気問題のさらなる改善が期待される。



## 話題の株

## 三井海洋

# 石油プラント受注減に警戒

13日の東京株式市場で洋

上石油プラントを建造する

三井海洋開発の株価が急落

した。一時、前日比363

円(22%)安の1266円

と約1カ月半ぶりの安値を

つけた。12日に2020年

12月期の業績見通しの大幅

な下方修正を発表。原油安

を受けた受注低迷も改めて

警戒され、幅広い投資家の

売りがかさんだ。

終値は314円(19%)

安の1315円だった。同

社は12日、今期の連結最終

損益が100億円の赤字

(前期は182億円の赤字)

になる見通しだと発表し

た。新型コロナウイルスの

感染が広がったことによる

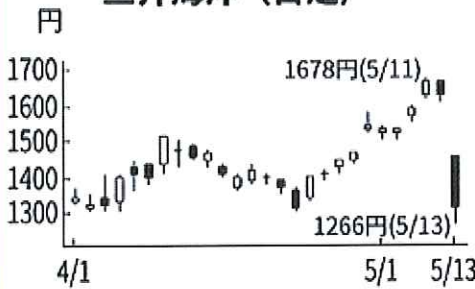
建設工事の遅れで、追加コ

ストが発生して採算が悪化

する。従来予想は120億

円の黒字だった。

三井海洋 (日足)



だ」とみる。

株式市場では低水準で推

移する原油価格による業績

不安も改めて意識された。

## 原油安続き先行き不安

今回の下方修正は原油安を

背景に資源会社が投資決定

を遅らせたことも一因だ。

2〜3月にかけての原油相

場の下落を受け、3月23日

には年初来安値となる10

21円を付けている。

サウジアラビアが追加減

産を発表しても、アジアで

のコロナ感染の第2波など

が懸念されて油価の反応は

限定的。このままだと石油

会社による投資案件が減り

かねない。立花証券の島田

嘉一アナリストは「過去の

原油安局面と同様に将来的

には受注残がゼロにまで減

る可能性がある。受注の先

行きへの不安が株価に反映

されている」とみる。しば

らくは上値が重い展開が続

きそうだ。